



シリーズ 感染症や疾病の予防

公立学校共済組合近畿中央病院
眼科医長

まつおか
松岡

たかのり
孝典

緑内障とは

緑内障は、視神経に障害を及ぼし、視野が狭くなる進行性の眼疾患です。日本では中途失明の原因の一つとして知られております。患者数は年々増加しており、40歳以上の20人に1人が緑内障である可能性があると言われています。しかし、多くの場合、自覚症状が乏しいため、気づかないまま病状が進行してしまうことがあります。そこで、緑内障を正しく理解し、早期発見・治療の重要性を知ることが大切です。

■緑内障の病態

緑内障の主な原因は、眼球内の房水（ぼうすい）と呼ばれる液体の排出が妨げられ、眼圧が上昇することにあります。房水は眼球の形状を保つとともに、角膜や水晶体に栄養を供給する役割を担っています。通常、房水は一定の経路を通じて排出

されますが、この経路が何らかの理由で詰まったり狭くなったりすると、房水が眼内にたまり、眼圧が高くなります。

眼圧の上昇により、視神経が圧迫されると、視神経が徐々に損傷を受けます。この損傷が進行すると、視野が狭くなる「視野欠損」が生じ、最終的には失明に至ることもあります。視神経は一度損傷を受けると回復することがないため、眼圧を適切に管理することが重要です。

■緑内障の治療

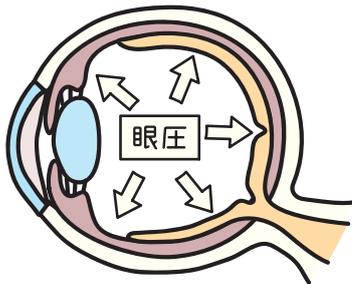
緑内障の治療の目的は、眼圧を下げて視神経へのさらなるダメージを防ぎ、病気の進行を抑えることです。一度失われた視野を回復させることはできませんが、早期に治療を開始することで、視力を保つことが可能です。

治療法には、点眼・レーザー治療・手術があります。緑内障の原因や病期によって異なりますが、基本的には点眼治療から開始します。

1. 点眼薬による治療

点眼薬は、房水の産生を抑えたり、排出を促進したりすることで眼圧を下げます。患者様自身で毎日継続的に使用する必要がありますが、多くの場合、この方法で眼圧を効果的にコントロールできます。

緑内障



2. レーザー治療

レーザーを用いて房水の排出を助ける治療法です。効果が生じにくい場合もありますが、外来で比較的短時間で実施でき、患者さんの負担も少ないとされています。

3. 手術

点眼薬やレーザー治療で効果が不十分な場合、手術が選択されます。主な手術には以下があります。

• 線維柱帯切除術

房水を排出するための新しい経路を作ります。

• 線維柱帯切開術

房水の排出経路を広げる手術です。

• インプラント手術

房水を排出するための小さなデバイス（チューブやバルブ）を挿入します。

■健康診断の重要性

緑内障は、自覚症状が乏しいことが特徴です。視野が狭くなっていることに気づいた時には、すでに視神経の損傷が進行している場合が少なくありません。そのため、40歳を過ぎたら定期的に眼科検診を受けることが重要です。特に家族に緑内障の患者がいる方や、糖尿病、高血圧などのリスク因子をお持ちの方は、検査を受けることをおすすめします。

健康診断では、眼圧測定や眼底検査などを通じて緑内障の有無を調べます。これらの検査は痛みを伴わず、短時間で実施できるため、忙しい方でも気軽に受けることができます。

■まとめ

緑内障は適切に治療を行えば、その進行を抑えることが可能な病気です。しかし、治療を始めるタイミングが遅れると、視力や視野に取り返しのつかない影響を及ぼす可能性があります。定期的な健康診断を受け、早期発見に努めることで、大切な視力を守りましょう。大切な目を守るために、気になる症状がある場合や健康診断を受けたいとお考えの方は、ぜひお近くの眼科にご相談ください。

